

お酒と私

加藤 誓 (ちかい)

仕事の関係で35年前お酒の代謝の研究に係わった。

(芳原準男*アルコールで検索すると論文が出てくるよ!)

お酒を飲むと、エチルアルコールが胃から



吸収され脳の神経を軽く麻痺させ いい気分になる。

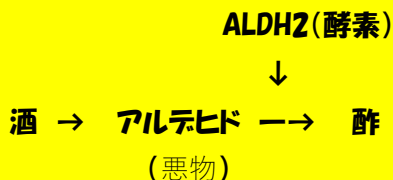
しかし同時にアルコールは、血中でアセトアルデヒドに変化する。

これが、血圧上昇、フラッシング (顔が真っ赤) や

吐き気など悪酔い、長期的には肝障害を引き起こすのだ。

酒が強いと言われている人は、アセトアルデヒドを

直ぐ酢酸、いわゆる酢に変えて無毒化するのだ。



その仕事をする酵素をアルデヒドデヒドロゲナーゼ2 (ALDH2) という。

研究は、この ALDH2 の酵素活性を高めるものを探すことである。

私が狙いを付けたのは、SH 化合物である。

難しそうだが、パントテン酸、タウリンやアミノ酸の一つ

メチオニンやL-システインなどである。もっと分かりやすくいうと

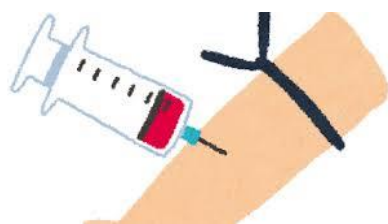


「シジミ・牡蠣・イカ・タコ」などに多く含まれているものである。岡山大学

医学部の学生にお願いし、色々な SH 化合物を事前に服用してもらい

(何も服用しないのと比べ) 一定量のウイスキーを飲んだ後の

血中アルコール濃度、アセトアルデヒド濃度、酢酸濃度の経過測定を
して SH 化合物の効果を比べてみたのだ。



予想通り大小はあるが、SH 化合物は酵素活性を2~3倍高め、
アセトアルデヒドを素早く酢酸にする結果を得た。

広告で、「酒の回復にシジミエキスを！」

「ハイチオールCの効能にある二日酔い！」その根拠になった研究である。

その実験で酵素ゼロの学生がいた。

ゼロを活性化してもゼロであり、3日酔いの状態となり

今だったら裁判沙汰だった。

まったく酒がダメな人は、この酵素が元々ゼロの人である。

一気飲みの強制での死亡はこの様な人であり、実験後、
飲めない方には決して強制しないことにしている。

一般的に男性より女性はこの酵素が少ない人が多い。

ところが、精神不安定症でキッチンドラガーになると

その酵素は徐々に増え1日にウイスキー1本以上も飲むようになるのだ。



私は、お酒が好きで、ある程度は飲める自信がある。

これが、失敗の元。今まで酔っぱらって失敗したことは、数えきれない。

研究はしたが「わかちゃ、いるれど、やめられない！」困ったことだ。

